



しっかりまとめをするとは?



2学期も残すところ12日となりました。よく「2学期のまとめをしっかり頑張りましょう」と教師が子ども達に呼びかけますが、「しっかりまとめをする」とは、どんなことをすることなのでしょうか。

例えば、

- 👉 ドリルや教材のやり残しがなく、しっかり使いきる。
- 👉 2学期に学習した基礎的・基本的な内容の復習をして確実に身に付ける。
- 👉 2学期の学校生活を振り返り、なかま（学級）とじぶん（個人）の成長の足跡を確かめる。



などが挙げられます。このように、しっかりまとめることは様々ありますが、私が大事にしたいことは、

達成感をもって2学期を締め括る!

ということです。これができるば、自信と希望をもって3学期を迎えられます。

さて、お子さんは、お子さんの学級は、どんな達成感が得られた2学期だったでしょうか。



達成感マックス!

左の写真は、先週金曜日に校長室暗唱チャレンジに挑戦し、見事合格した3年生の子ども達です。

2学期の暗唱課題をクリアした子ども達は、達成感マックスです!

師走を迎えて ~子どもの心に寄り添う~

何かと気忙しさを感じる12月。二つのエピソードを紹介します。

〈Episode1〉

バスの中で3歳の子が母に言いました。「ね、あっちのおうちも、こっちのおうちも大きいねえ、ボクんとこ、どうして小さいの。」

すると、若い母親が言いました。「あんな大きなおうちだったら、ママが坊やにお話しても聞こえないでしょう。応ずぎて。」すると、坊やが言いました。「ホントだね。」

〈Episode2〉

雪が降った日でした。バスの中で、「お母ちゃん、ここにも雪が来ているよ。」

すると、母親が言いました。「ほんとね、坊やのおうちのベランダにも来っていたでしょう。」

坊やに雪が来ているのではなく、雪は降っているのですよ、と訂正しなかったその若い母親を、私は美しいと思いました。何と豊かな会話だろうと心が温かくなりました。

ややもすると、大人の論理だけで考えてしまい、子どもの「心の声」に気付けないことがあります。時には立ち止まって、ゆっくりと子どもの「心の声」に耳を傾けたいと思います。

私達大人にもそれぞれ幼い頃があり、「様々な不思議」に驚いたり、大人から見ればガラクタにしか見えない「宝物」を大切に保管したりした経験があるのではないのでしょうか。

子ども達に豊かな感性を育むことは、一朝一夕にはできませんが、ひょっとしたら、普段の生活の中にその機会はいくらでもあるのかもしれません。

